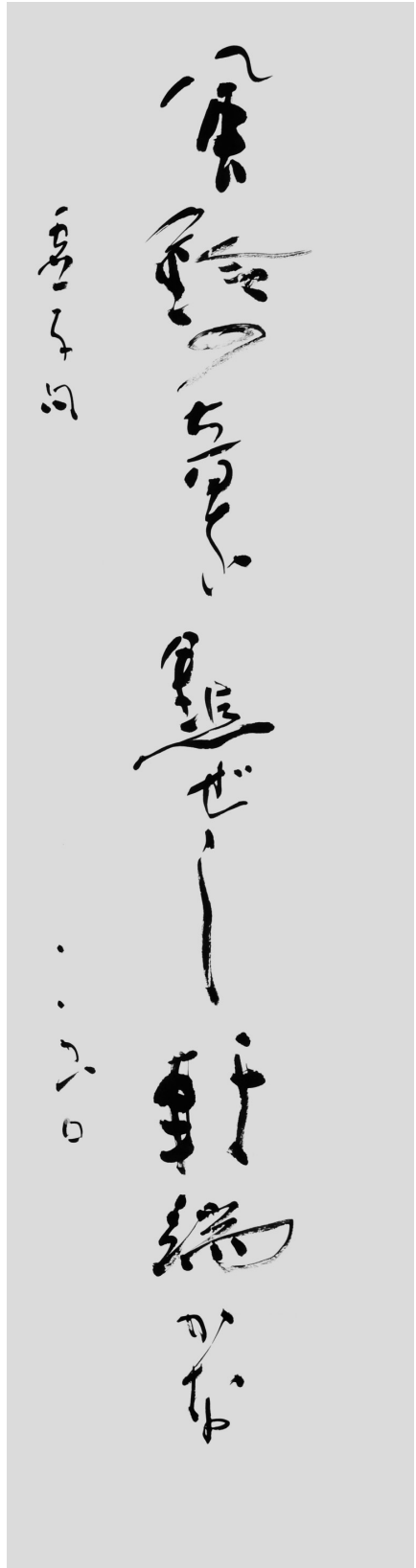


条幅部自由参考

9月25日正午必着

明石春浦先生書



菊花香淡秋光老、落葉聲多夜氣清 (張陳)

菊の香もあわく、秋も深まり、落葉の音しげく夜気も涼しい。

明石幸子書

風鈴の音を點せし軒端かな (高浜虚子)

雨宮春聲先生書

石路泉流兩寺分尋常鐘磬
隔山聞山僧半在中峰住
占清猿與白雲權德輿詩書口

石路泉流兩寺分 尋常鐘磬隔山聞 山僧半在中峰住 共占清猿與白雲 (權德輿)

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

葉上秋光白露寒 (羊士諤)

葉上の秋光白露寒し

草木の葉に秋の陽光がさし、白露がつめたたく光る。

千里作遠客五更思故郷
寒鴉數聲起窗外月如霜 (沈受宏)

千里遠客と作り、五更故郷を思う。
寒鴉數聲起り、窓外月霜の如し。

はるばると旅に出れば、夜明け近くになると夢もさめ故郷が想われてならない。二た声三声鳥のなくのが聞こえ、窓外は霜がおりたかと疑われるほど月光が白い。五更は夜の時を五分した最後の時間。午前四時以後。

秋夜同梁鍾文宴 (錢起)

秋夜 梁鍾が文宴に同ず 錢起

客到衡門下 杯香蕙草時

客は到る 衡門の下 杯は香し 蕙草の時

好風能自至 明月不須期

好風 能く自ら至り 明月 期するを須いず

秋水翻荷影 清霜脆柳枝

秋水 荷影を翻えし 清霜 柳枝を脆にす

微官是何物 許可廢吟詩

微官 是れ何物ぞ 許で詩を吟ずるを廢す可けん

アカシヤの街櫺にポプラに 秋の風吹くがかなしと 日記に残れり (石川啄木)

半紙部規定課題A

9月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

9月25日正午必着

行書

何水賦
歸田

隸書

何水賦
歸田

明石春浦先生書

草書

何水賦
歸田

行草書

何水賦
歸田

池中の島はすがすがしい木陰におおわれ 遊興の船をうかべる人もない
山中の蟬は鐘をうちならすかのように啼き 花におく露は水晶のようにまるい
静の極みの中に、朝夕をすごし 奥深く観照すれば、すでに玄妙に達する
故郷もちょうどこのようであらうものを どうして帰田の賦を吟じないのであろうか

林館避暑

羊士諤

池島清陰裏

無人泛酒船

山蛸金奏響

花露水精圓

静勝朝還暮

幽觀白己玄

家山正如此

何不賦歸田

林館に暑を避く

羊士諤

池島清陰の裏

人の酒船を泛ぶるもの無し

山蛸金奏響き

花露水精円かなり

静勝朝還暮

幽觀白己に玄

家山正に此の如し

何ぞ帰田を賦せざる

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より

9月25日正午必着

西齊軍
其東

西に(軍し)、齊は其の東に軍す。

雨宮春聲先生臨書



後漢王朝が滅び、魏・蜀・呉の三国が分立した時代(二二〇〜二八〇)に入ると、漢代の正式書体であった隸書も立碑の禁止の影響もあって、儀礼的な用途のみに限定されるようになり、後の西晋(二六五〜三二六)から東晋時代(三一八〜四二〇)へと遷り変わる間に、一般には篆隸を簡略化した楷・行・草書が広く使用されるようになった。ただ、書体的には過渡的な時代であり、その美しさを完成するにはいたらなかった。

一方、西晋の武帝が崩御すると、王位継承をめぐる内乱がおこり、一時動揺を来たした王朝の隙に乗じて、北方から西域にかけて五つの胡族が次々に小国を興し、約百三十年の間各地方に分立して抗争を続けていた。その主な十六の国を取りあげて、五胡十六国時代と呼んでいる。

この残紙は一九〇一年スウェーデンの探検家ヘーデンにより中国西域の樓蘭遺跡付近で発見された紙文書である。残紙には信書(手紙)やその草稿と思われるものがあるが、他にわずかに書籍がある。これは「戦国策」の燕に関係する部分であると言われている。今世紀始めに、西域地方においてこれら数多くの肉筆の木紙文書がつぎつぎに発見されたが、隸書から行・草書への移行期の書風文書が資料として大変貴重であり、極めて遠隔の地にあった、かの書聖・王羲之の筆法とつながるところも見られ、まことに興味深い。

(春濤)

西に(軍し)、齊は其の東に軍す。楚の軍、還らんと欲するも得べからざるなり。景陽乃ち開き……師これを怪む。以為く燕楚、魏ともこれを謀る、と。乃ち兵を引きて去る。齊の兵：師乃ち還る。張丑、燕に質となる。燕王これを殺さんと欲す。走りて且に竟を出でんとす。竟吏、丑を得たり。丑曰く、「燕王の為に將に我を殺さん

西齊軍其東楚軍欲還不
 可得也景陽乃開師

西(軍し)、齊は其の東に軍す。楚の軍、還らんと欲するも得べからざるなり。景陽乃ち開き……師(これを怪む。)

△做書参考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

謹於言而慎於行

書口

謹於言而慎於行(禮記)

言行をつつしんで身を修める。



ちよく
勅

し
使

中学一年

雨宮春聲先生書



けい
経

けん
験

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



まん げつ
満 月

小学五年

榎戸春龍先生書



しょう めい
証 明

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

9月25日正午必着



きゅう ひゃく
九 百

小学三年

藤田幸春先生書



しゅう ぶん
秋 分

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ふ

ぐ

小学一年・幼年



森戸春濤書

すこ

し

小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

健康によくな
不きそくな生活は

小学五年

妹が留守番をしてい
るので早く帰ります

小学六年

法律を定めるのは国
会の仕事の一つです

中学

神の合わせ給いし者は
くこれを離すべからず

一般(級位)

ほのかにぞ鳴きわたるなる時鳥
み山を出づる今朝のはつこ急
坂上望城

一般(段位)

ほのかにぞ鳴きわたるなる時鳥み山を出づる今朝のはつこ急(坂上望城)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

が	い
	け
と	に
び	
こ	か
ん	え
だ	る

幼年

を	き
	れ
み	い
つ	な
け	貝
た	が
	ら

小学一年

が	海
	か
ふ	ら
き	つ
つ	よ
け	い
る	風

小学二年

聞	あ
	か
こ	る
え	い
て	歌
く	声
る	が

小学三年

い	さ
わ	わ
し	や
雲	か
が	な
流	秋
れ	空
る	に

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

夏山の
みどりの
しげり
うらゝかに
なくは
まづめか
谷とほにして

て

夏山のみどりのしげりうらゝかになくはまづめか谷とほにして (伊藤左千夫)

岩本景楓先生書